

古都首里のまちづくり基本方針

- ① 首里城復元に向けて首里のまちを含めた、沖縄県策定の首里杜構想を推進するまちづくり
- ② 緩衝地帯（バッファゾーン）として示された区域は、世界遺産の保存管理に資するまちづくり
- ③ 首里杜一帯の歴史的眺望点からの眺望景観の保全を図るとした那覇市景観計画を推進するまちづくり
- ④ 徒歩と自転車交通の推進を位置づけた那覇市交通基本計画を推進するまちづくり
- ⑤ 首里城公園に隣接する王城のまち首里らしい景観のあるまちづくり
- ⑥ 先人の叡智と弛まぬ努力に習い、平和で美しく賑わいと神秘性を持ち歴史が薫る風格あるまちづくり
- ⑦ 首里を愛し、首里に誇りを持ち、住んで歩いて楽しいまちづくり
- ⑧ 伝統文化の保存継承と新たな文化創造の場となるまちづくり
- ⑨ 先人への畏敬の念と想いを子々孫々へ伝え、誇りと発展へと継承できるまちづくり
- ⑩ コミュニティ活性化を推進するまちづくり

古都首里のまちづくりの展望

① 「首里杜構想」を軸にした展望

首里杜構想では、首里城と密接に関連する歴史的街区や道筋、城内からの雄大な眺望、首里八景として詠まれた名勝の地、これらを取り巻く豊かな歴史的環境について計画的に保全や復元、整備を進める事が極めて重要であると認識し、今後の首里のまちづくりの方向性と首里城公園の位置づけを示し、次の五つの方針が掲げられ、今も首里城公園整備計画の拠り所としていることに変わりはない。

- ・点在する文化財と自然環境―歴史的風土を一体として保全する。
- ・各種の都市開発事業は、首里の歴史的な町なみや風土と調和することを原則とし、可能な限り地形、水系、植生、景観を保全・回復する。
- ・歴史的都市の骨格を形成する首里城をとりまく枢要な拠点は、重点的に保全整備し、特に首里城からの眺望を確保する。
- ・点在する文化財やこれをとりまく歴史的風土を巡る周遊歩道を整備し、歴史的要素の連続化を図る。
- ・首里城跡公園の整備に関連して、首里城と密接な関係を持つ地区については、集約的な歴史的、文化的なまちづくりを推進する。

② 首里の歴史と伝統文化の継承を軸にした展望

琉球王国時代は、首里城の年中行事だけでも正月行事から五穀豊穡行事、季節毎の行事と100余を数える。その他にも就任行事や冊封に関係する行事と文化行事が多く行われていた。そのなかで御冠船踊りや組踊等が生まれてきた。歌三線（ウタサンシン、琉球音楽）・舞踊・組踊等の芸能や織物・染物や泡盛、料理、空手、茶道、礼儀作法等全て首里から地方へ変化しながら広がったものである。そのような伝統文化の回復・保存継承する歴史的、文化的なまちづくりを推進する。

③ 地域コミュニティの活性化を軸にした展望

首里地区には、各自治会含め50余の活動団体がまちづくり活動を継続している。各々の団体の活動を地区全体のまちづくりに展開していくには、各活動の情報交換等を行うコミュニティ空間（施設）が必要である。又、まちづくりについて行政や関係団体との共有も欠かせない条件である。地域コミュニティの活性化・連携を促進する官民協働のまちづくりを推進する。

パンフレットの制作目的

本パンフレットは、平成23年度「住まい・まちづくり担い手事業（長期優良住宅等推進環境整備事業）」により実施したまちづくり構想マップの作成と歴史資産のCG化等事業のとりまとめとして制作を行った。

首里のまちづくり関係団体や関係行政・機関及びまちづくりに関する研究者等が本パンフレットを活用することで、先人達が永い歴史のなかで培ってきた想いと技・匠のもつ価値感を共有することを期待し、古都首里の風景のあるまちづくりについて、その輪をさらに広げ、これを契機にまちづくり全体の議論を積み重ねるなかで、古都首里の風景のあるまちづくり推進の一助となることを願い、発行するものである。

首里の概要

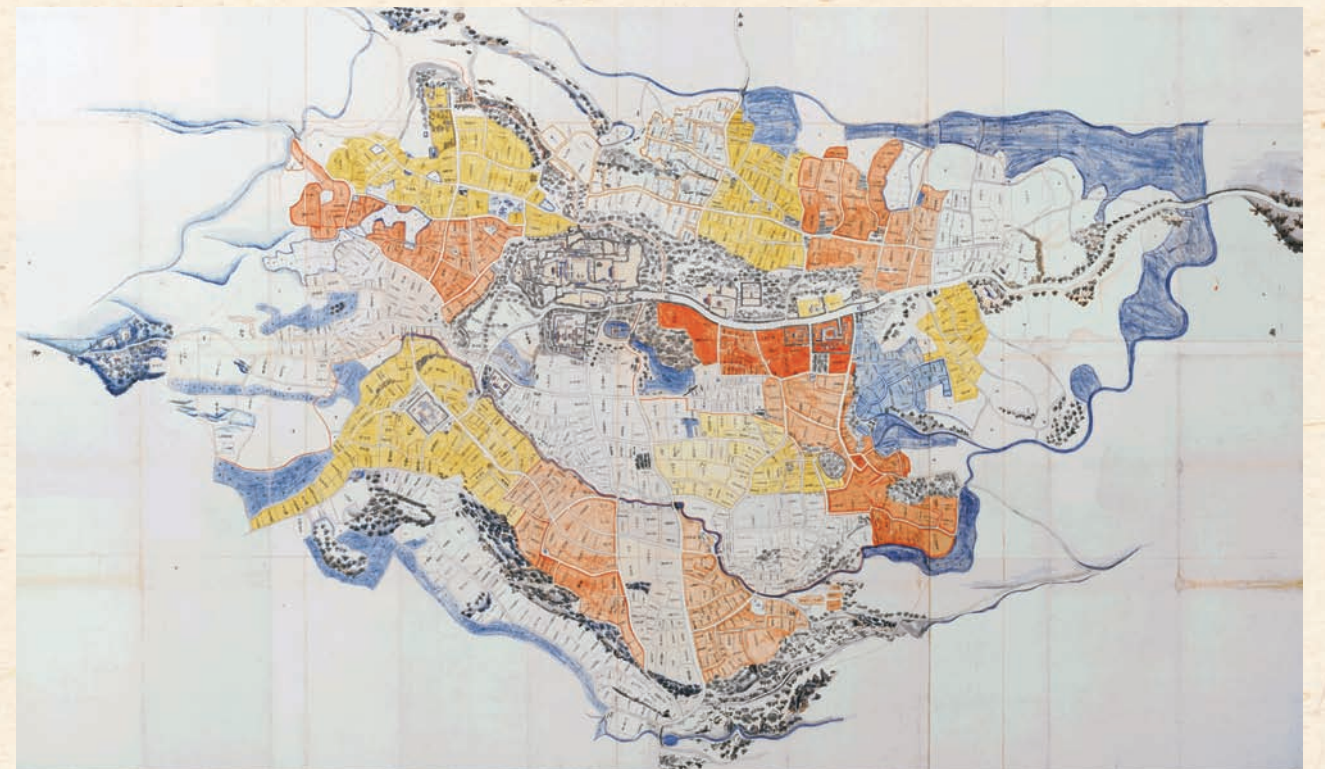
首里は、海拔100メートル程度の高台に立地し、沖縄県那覇市の一地域で市の北東部を占める。1429年から1879（明治12）年の廃藩置県迄の450年間、首里城の城下琉球王国の王都として政治・文化の拠点として栄えた地区である。

1925（大正14）年から1936（昭和11）年にかけて、沖縄県の23件もの文化財が旧国宝に指定され、京都、奈良に次ぐ数を誇り、その内17件が首里に存在した。

1938（昭和13）年から1940年迄の間、4回にわたって来沖した美術学者の柳宗悦は古都首里を訪れ、その印象を「日本第一の美しい都市」と表現した。柳は、古都首里の都市美を「自然と歴史と人文のかくもよく保存されている希有な存在」と評し、「真に生きた庭園の都市」「人文の華を織りなした名園」と絶賛した。しかし1945（昭和20）年の沖縄戦で壊滅し、瓦礫の山となった。

その後、1992（平成4）年に首里城の復元、2000（平成12）年に首里城跡を始めとした「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は、その伝統技術と精神文化が世界に誇れる独自の歴史文化として世界遺産に登録された。

首里地区には、現在も多くの文化財が点在し、人々の心の拠り所となっている。1700年代に作成されたと伝えられる『首里古地図』からは昔の首里の町並みの様子を知ることができる。



『首里古地図』沖縄県立図書館所蔵